



はじめのいっぽ

令和5年度
9月号

令和5年8月31日
認定こども園
東野田ちどり保育園
東野田ちどりキッズ・庁舎内
江川 永里子

9月を目前にしても、一向に酷暑は静まらず「秋」の気配すら感じずに冬突入??と心配になる今年の夏です。

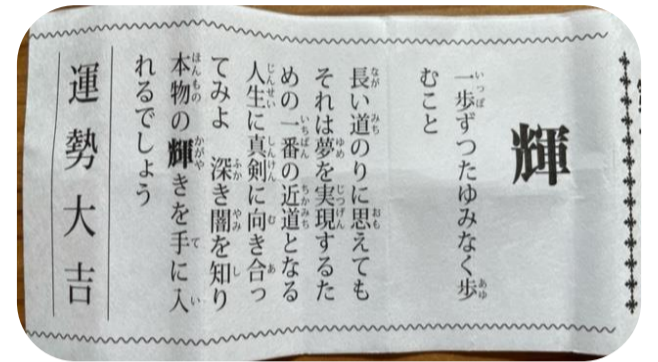
今年も災害の夏になりました。自然の驚異が増すように恐怖すら覚えます。

せまり来る南海トラフに備えて職員と共に、BCP(事業継続計画)を深めています。

10月8日(日)第15回運動会のテーマは、「どの色もすてき～はばたこう～」です。

各々の個性を活かしつつ、夢や目標に向かって進もうという事です。

認め合う力!!大切にしたいと思います。



～ アドラー より ～

みたび勇気づけ

1, 子どもを理解しよう

「子どもを理解する」というのは、子どもの言うなりになることではなくて、起こった出来事について、子どもがどんな風に理解し、どんな風に感情をもち、どうしていこうとしているのかを、よく話を聴いてわかってあげることです。親が話を真剣に聴くと、「親は私の仲間だ」と感じるでしょう。忙しいときなどに話しかけてくるのは、あるいは不適切な行動でもって注目を引こうとしているのかもしれませんが、しかし、そんな場合でも、仕事の手を止めて、真正面から子どもに向き合ってみてはどうでしょうか。

2, 冷静に話し合おう

あなたが感情的になっていても、子どもが感情的になっていても、子どもを勇気づけることはできません。そういうときには、両方の感情がおさまるまで、話し合うのを先へのばしましょう。両方が落ち着いてから、ゆっくりと話し合えばいいのです。

3, 子ども自身に考えてもらおう

子どもの人生について、できるだけ子ども自身が考えて決めてほしいと思われませんか?だって、それが「自立する」ということです。そのためには、子どもが失敗したときや間違いを犯したとき、親が指示するのではなく、子ども自身にどうするかを考えてもらうことが必要です。子どもが自分で考えることが難しいようなときでも、ゆっくりと子どもの話を聴いてあげると、子どもはさまざまのことに気がついて、自分で決めることができるようになるかもしれません。

4, 子どもを援助しよう

人間は一人で生きていくことはできません。いつでも誰かの手助けがないと生きていけないのです。子どももそうですし、大人もそうです。ですから、親は子どもを援助しなければなりません。もちろん、子どもも親を援助してくれます。そうして助け合って生きるのが家族なのです。子どもを支配するのではなく、子どもに服従するのではなく、対等の仲間として子どもを援助して暮らしたいと思われませんか?